

年 組 名前 :

県消防職員意見発表会で
最優秀賞

伊藤 りらさん

県内10消防本部から19人が参加した第46回県消防職員意見発表会で、最優秀賞に選ばれた。「まさか自分が選ばれるとは思っておらず、頭が真っ白になった」と振り返る。発表では応急手当の方法や、どのような場合に救急車を呼べば良いのか分からない人が多くいることを踏まえ、幼いころから知識を身につけることが、救急車の適正利用などにつながると指摘した。すごろくゲーム、出血やねんざといったアクシデントを書き、その適切な処置方法などを選択肢から選んで進めるすごろくゲームを考案。詳しい解説も付けることで、子どもたちに新たな気付きを与えることができること、ゲームの良さを普及の重要性を主張した。「スマホのアプリ

顔



幼少期からの啓発 大切に

いとう・りらさん 富士五湖消防本部富士吉田消防署に勤務。富士吉田市緑ヶ丘2丁目。26歳。
は使える場所が限られる。すごろくにするので、学校や保育所などで気軽に使えて、隙間時間でも楽しみなから学ぶことができる。発表会には初めて出場。消防署の会議室で同僚や上司に何度も発表を聞いてもらった。文章を添削したりしながら本番を迎えた。一人前で話すのは苦手だが、出場するからには勝ちたいと思っていた。4月27日には千葉県で行われる関東大会に出場する。「人に訴えかける話し方を研究し、心を引きつけない。全国大会出場を目指したい」と意気込む。
消防職員になるとの思いは高校時代に芽生えた。近所に住む祖父が体調を崩して衰弱していく中、あまり見舞いに行けなかったことを後悔し、将来は人命に関わる仕事をしたいと思いはじめた。大学在学中に救急救命士の資格を取得、2019年に富士五湖消防本部に入った。「消防士は地元を守るヒーロー。将来は現場全体に気を配ることができ、隊長を目指したい」

〈坂本尚己〉

(2023年2月17日付 山梨日日新聞11面)

問1 富士吉田消防署に勤務する伊藤さんが、消防職員意見発表会で、最優秀賞に選ばれました。

どのようなことが、救急車の適正利用につながると指摘しましたか。

.....

問2 伊藤さんが考案した「すごろくゲーム」を、説明してください。

.....

問3 なぜ、伊藤さんは、高校生の時に、消防職員になろうと思ったのでしょうか。

.....

.....